

令和8年度全国学力・学習状況調査結果の概要

調査実施日

令和8年4月20日（月）～5月29日（金）

調査実施校数（県内公立学校）等

	調査実施校数	集計対象者数
小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年	440校	21,559人
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年	235校	19,436人

教科に関する調査の結果

- 小学校は、国語、算数において、平均正答率が全国を上回っている。
- 中学校は、国語、数学において、平均正答率が全国と同程度である。
- 英語3技能において、平均IRTスコアが全国を下回っている。

		小 学 校		中 学 校	
		国 語	算 数	国 語	数 学
平均正答率 （％）	広島県 （公立）	64	58	64	57
	全 国 （公立）	60.9	56.4	63.9	57.0

		中 学 校	
		英 語 3技能	英 語 4技能
平均 IRT スコア	広島県 （公立）	492	9月以降 公表予定
	全 国 （公立）	499	9月以降 公表予定

※ 中学校英語3技能は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の総合スコア、4技能は「話すこと」を含めた総合スコア。

※ 中学校英語「話すこと」を含めた4技能の平均IRTスコアについては、9月以降（秋頃）に公表予定。

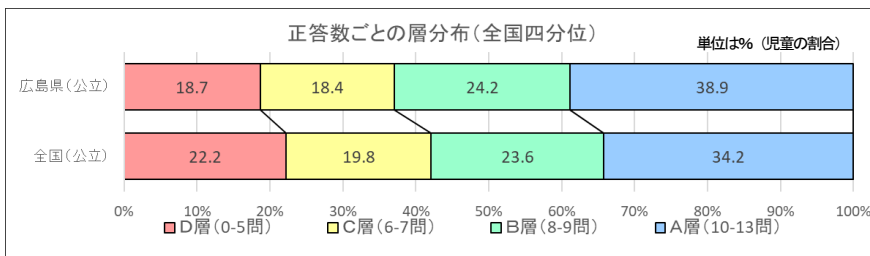
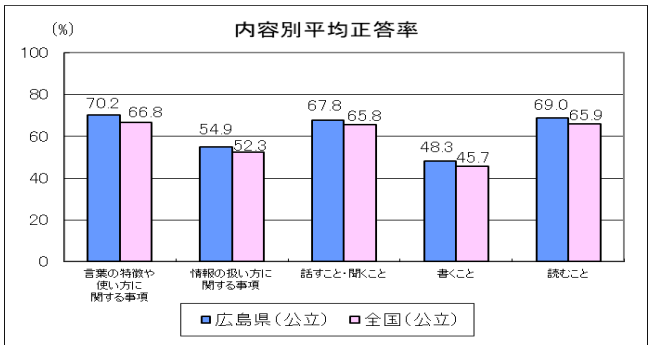
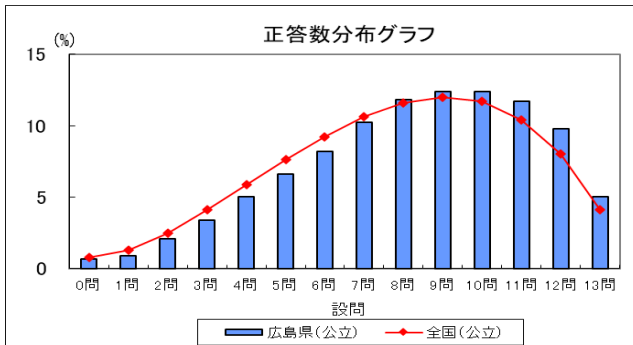
- IRT とは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRT では、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示されている。IRTを導入する年のIRTスコアを基準値として、経年比較が可能となる。

教科に関する問題の調査結果

1 小学校 国語

- 国語については、平均正答率が64%で、全ての内容において平均正答率は全国平均より高い。
- 正答数分布グラフは、右寄りの山形になっており、中央値は9問（全国8問）、最頻値は9問、10問（全国9問）となっている。
- D層（正答数0～5問）の児童の割合は、全国に比べて3.5ポイント低い。

国語



※正答数ごとの層分布(全国四分位)
全国の児童を正答数の大きい順に整理し、
人数割合により25%刻みでA～Dの4つの層
に分け、その層別の状況を示したもの。

正答率上位2問

- 【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す(みじか-い)
(設問 2三ア) 84.0% (全国 80.0%)
- 【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く
(設問 3三(2)) 81.2% (全国 76.4%)

正答率下位2問

- 【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く
(設問 2四) 37.0% (全国 33.5%)
- 【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す(ふしぎ)
(設問 2三イ) 48.8% (全国 45.2%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- 【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く
(設問 3三(2)) 81.2% (全国 76.4%、全国比+4.8 pt)
- 〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する
(設問 1二(3)) 69.2% (全国 65.2%、全国比+4.0 pt) ※同ポイント
- 【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す(みじか-い)
(設問 2三ア) 84.0% (全国 80.0%、全国比+4.0 pt) ※同ポイント

全国平均正答率を下回った下位2問

- 該当なし



各教科の分析には、次のような項目を入れていきます。

○正答数ごとの層分布(全国四分位)
学習につまずきが見られるD層の児童生徒の割合に着目し、児童生徒一人一人に対する支援や手立てを考えることにつなげていくため。

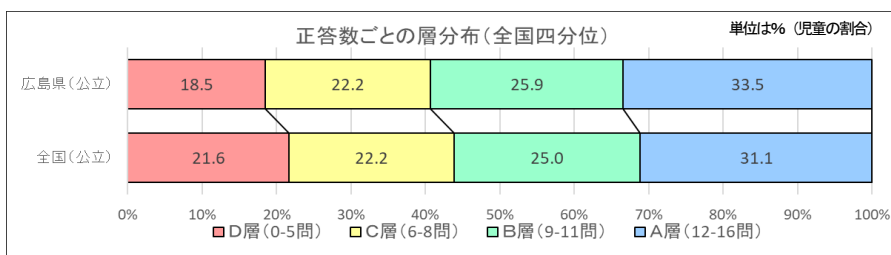
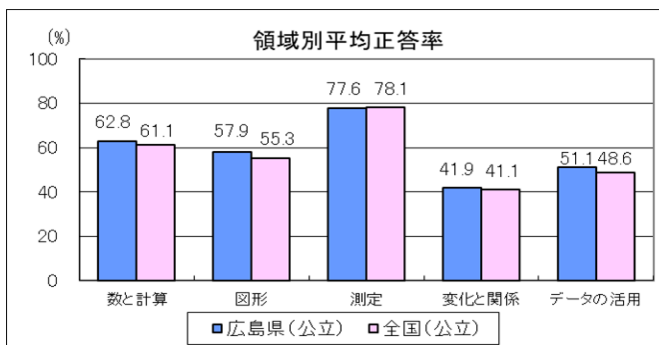
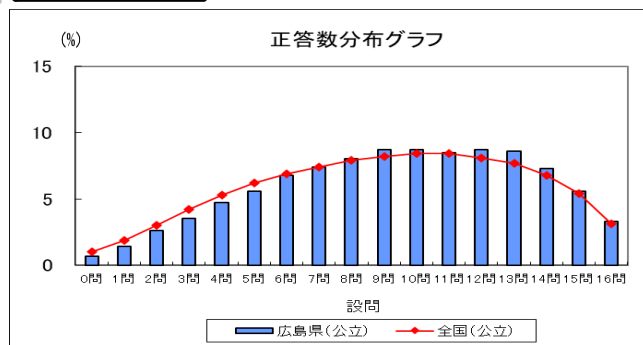
○全国平均正答率を上回った上位(下回った下位)2問

全国平均正答率と比べることで、各教科における広島県の傾向を把握し、授業改善等の取組につなげていくため。

2 小学校 算数

- 算数については、平均正答率が 58%で、内容別では、「測定」の平均正答率は全国平均より低く、他の内容は全国平均より高い。
- 正答数分布グラフは、なだらかな右寄りの山形になっており、中央値は 10 問（全国 9 問）、最頻値は 9 問、10 問、12 問（全国 10 問、11 問）となっている。
- D 層（正答数 0～5 問）の児童の割合は、全国に比べて 3.1 ポイント低い。

算 数



※正答数ごとの層分布(全国四分位)
全国の児童を正答数の大きい順に整列し、人数割合により 25%刻みで A～D の 4 つの層に分け、その層別の状況を示したものの。

正答率上位2問

- 1、5、9の3枚のカードを当てはめてつくることができる最も大きい数を書く (設問 ③ (1)) 95.4% (全国 94.5%)
- 一辺が8 cmの立方体の体積を求める式を書く (設問 ① (1)) 78.7% (全国 72.7%)

正答率下位2問

- 二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く (設問 ④ (3)) 17.7% (全国 17.9%)
- 赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ (設問 ② (4)) 34.4% (全国 34.2%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- 一辺が8 cmの立方体の体積を求める式を書く (設問 ① (1)) 78.7% (全国 72.7%、全国比 +6.0pt)
- 全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く (設問 ④ (1)) 61.7% (全国 56.2%、全国比 +5.5pt)

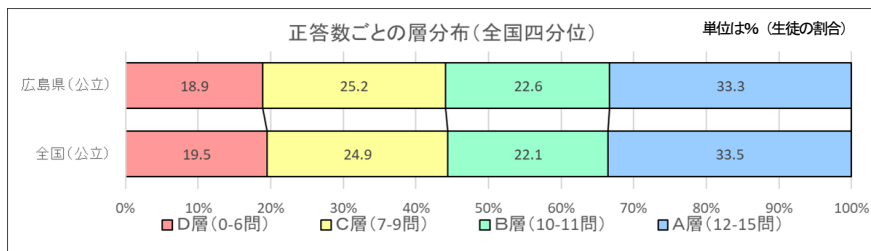
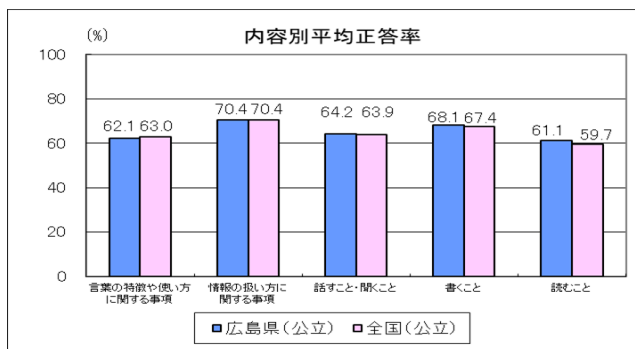
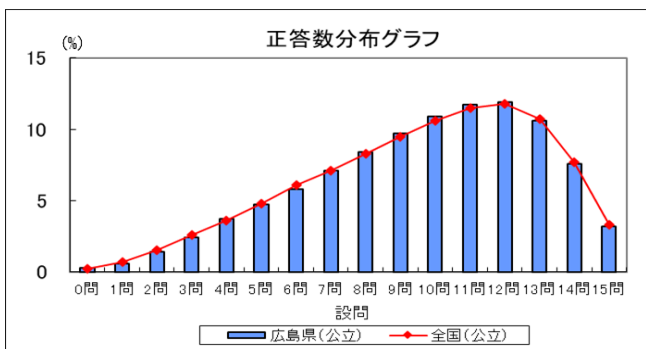
全国平均正答率を下回った下位2問

- 昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く (設問 ④ (2)) 77.6% (全国 78.1%、全国比 -0.5pt)
- 二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く (設問 ④ (3)) 17.7% (全国 17.9%、全国比 -0.2pt)

3 中学校 国語

- 国語については、平均正答率が64%で、内容別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は全国平均より低く、「情報の扱い方に関する事項」は全国平均と同程度、他の内容は全国平均より高い。
- 正答数分布グラフは、右寄りの山形になっており、中央値は10問（全国10問）、最頻値は12問（全国12問）となっている。
- D層（正答数0-6問）の生徒の割合は、全国に比べて0.6ポイント低い。

国語



※正答数ごとの層分布(全国四分位)
全国の児童を正答数の大きい順に整理し、人数割合により25%刻みでA~Dの4つの層に分け、その層別の状況を示したものの。

正答率上位2問

- 気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く
(設問 3二) 93.2% (全国 92.3%)
- 「ら抜き言葉」であるものを選択する
(設問 1三) 84.3% (全国 85.4%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- 二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く
(設問 4四) 42.0% (全国 38.9%、全国比 +3.1pt)
- 話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く
(設問 2四) 53.9% (全国 52.7%、全国比 +1.2pt) ※同ポイント
- 国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す
(設問 4二) 36.4% (全国 35.2%、全国比 +1.2pt) ※同ポイント

正答率下位2問

- 国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す
(設問 4二) 36.4% (全国 35.2%)
- 文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する(とる)
(設問 3一) 39.1% (全国 39.8%)

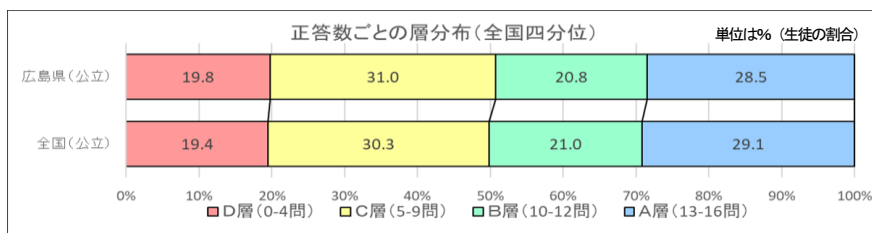
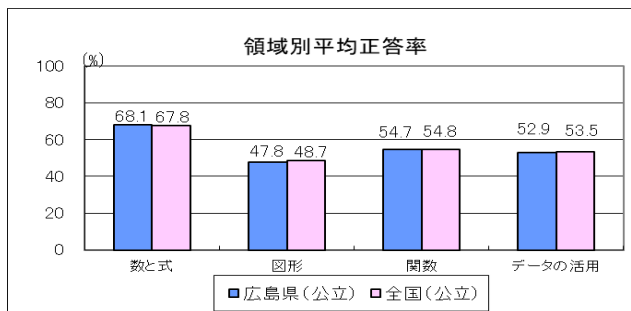
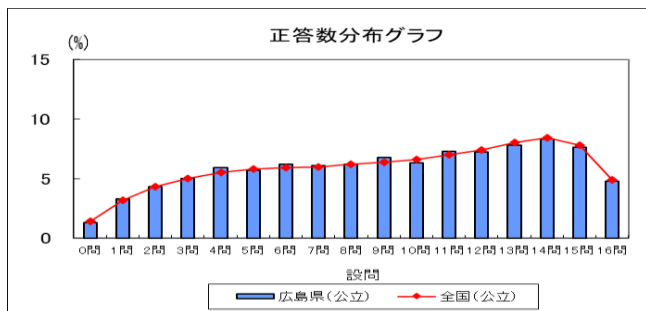
全国平均正答率を下回った下位2問

- 「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する
(設問 1二) 67.7% (全国 70.2%、全国比 -2.5pt)
- 「可能の意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する
(設問 1一) 82.9% (全国 84.3%、全国比 -1.4pt)

4 中学校 数学

- 数学については、平均正答率が 57%で、内容別では、「数と式」の平均正答率は全国平均より高く、他の内容は全国平均より低い。
- 正答数分布グラフは、なだらかで右に寄っており、中央値は9問（全国 10 問）、最頻値は 14 問（全国 14 問）となっている。
- D 層（正答数0-4 問）の生徒の割合は、全国に比べて0.4 ポイント高い。

数 学



※正答数ごとの層分布(全国四分位)
全国の児童を正答数の大きい順に整理し、人数割合により25%刻みでA~Dの4つの層に分け、その層別の状況を示したものの。

正答率上位2問

- 2月3日のA市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く
(設問 1) 85.3% (全国 85.7%)
- 選んだ2数が3と6のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く
(設問 6 (1)) 75.0% (全国 73.2%)

正答率下位2問

- 「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する
(設問 9 (3)) 32.7% (全国 31.9%)
- データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する
(設問 7 (2)) 36.0% (全国 33.9%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する
(設問 7 (2)) 36.0% (全国 33.9%、全国比 +2.1pt)
- 選んだ2数が3と6のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く
(設問 6 (1)) 75.0% (全国 73.2%、全国比 +1.8pt)

全国平均正答率を下回った下位2問

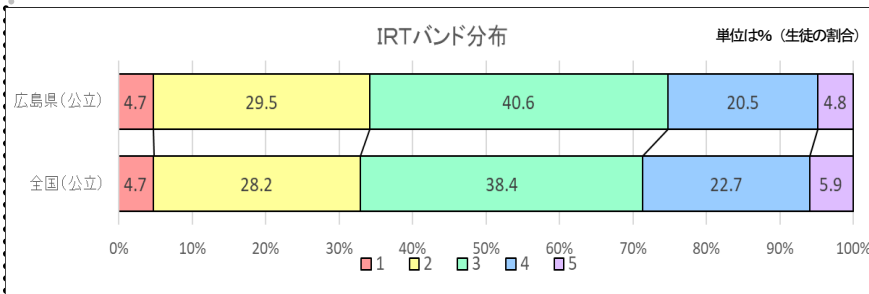
- 四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く
(設問 3) 47.0% (全国 49.1%、全国比 -2.1pt)
- 反比例の表において、xの値が-3のときのyの値を求める
(設問 4) 53.4% (全国 55.3%、全国比 -1.9pt)

5 中学校 英語（3技能）

- 英語3技能については、平均 IRT スコアが 492 で、IRT バンド1の生徒の割合は、全国と同ポイントで、IRT バンド2の生徒の割合は全国に比べて 1.3 ポイント高い。

※ 中学校英語3技能は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

英 語(3技能)



※ IRTバンド

各生徒に対して出題された問題の正誤状況に基づき、総合的に推定されるもので、1～5の5段階に区切ったもの。3を基準とし、5が最もスコアが高い。

正答率上位2問

- ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する
(設問 2) 76.6% (全国 78.5%)
- 学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する
(設問 3) 75.0% (全国 76.0%)

正答率下位2問

- 学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く
(設問 14) 26.0% (全国 27.8%)
- インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く
(設問 10 (2)) 26.7% (全国 27.8%)

全国平均正答率を上回った上位2問

- 中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く
(設問 12) 51.5% (全国 47.5%、全国比 +4.0pt)
- 留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を書く
(設問 13) 45.9% (全国 44.0%、全国比 +1.9pt)

全国平均正答率を下回った下位2問

- 物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものをを選択する
(設問 9) 45.8% (全国 49.0%、全国比 -3.2pt)
- 与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く
(設問 11 (2)) 49.7% (全国 52.7%、全国比 -3.0pt)

※ 上で取り上げた問題は、公開問題 16 問を対象としている。

令和8年度全国学力・学習状況調査中学校第3学年英語 「聞くこと」 https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_chuu_eigo_lis_kkykf.pdf

「読むこと」「書くこと」 https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_chuu_eigo_rw_kkykf.pdf

「話すこと」 https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_chuu_eigo_speak_kkykf.pdf

質問調査に関する調査結果

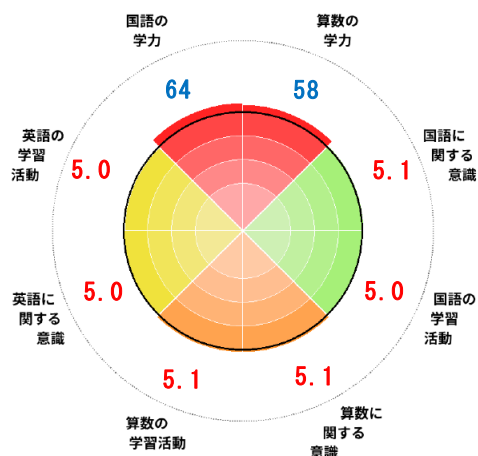
○ 全国学力・学習状況調査結果チャート

- 小学校は、質問調査において、全ての領域で全国と同程度又は全国を上回っている。
- 中学校は、質問調査において、「英語に関する意識」「学習習慣」で全国より低く、他の領域は全国と同程度又は全国を上回っている。

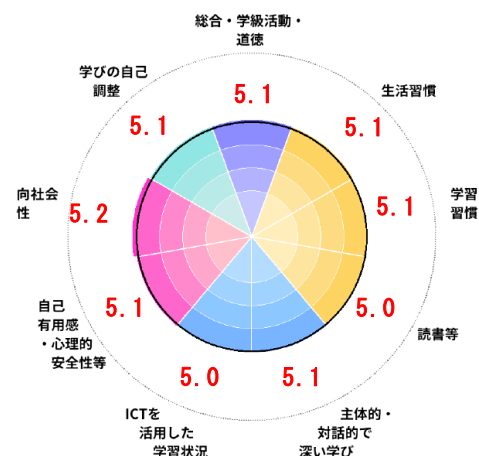
小学校

学校数 440 校 生徒数 21,559 人

教科を中心とした学力・学習状況



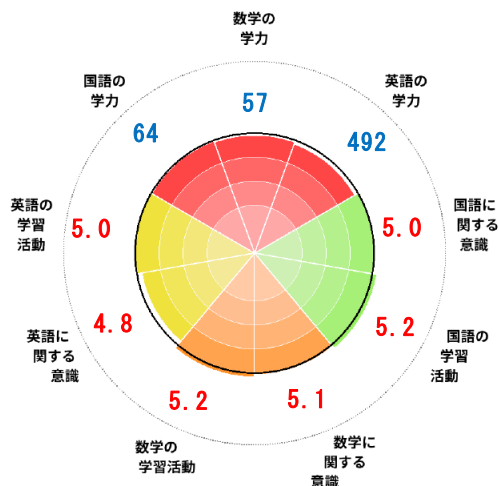
その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）



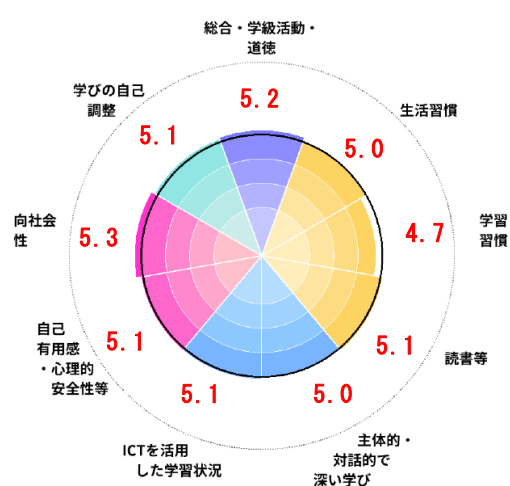
中学校

学校数 235 校 生徒数 19,436 人

教科を中心とした学力・学習状況



その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）



※結果チャートについて：児童生徒質問調査の下記の領域の回答状況を得点換算したもの（有効数字2桁）。全国平均が5.0となるように標準化されており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。チャート内の数値は、広島県の得点を示している。

領域名	児童生徒質問番号等	領域名	児童生徒質問番号	領域名	児童生徒質問番号
国語の学力	平均正答率 (中学校英語は平均IRTスコア)	算数(数学)の学習活動	(62)(65)～(67)	読書等	(26)～(30)
算数(数学)の学力		英語に関する意識	児童(69)～(71) 生徒(69)(70)(72)(73)	主体的・対話的で深い学び	(38)～(42)(44)(46)
英語の学力		英語の学習活動	児童(72)(73) 生徒(71)(74)～(76)(78)～(80)	ICTを活用した学習状況	(35)(36-1)～(36-4)
国語に関する意識	(52)(53)(55)	総合・学級活動・道徳	(47)～(51)	自己有用感・心理的安全性等	(6)～(9)(13)(15)(17)(20)(21)
国語の学習活動	(54)(56)～(59)	生活習慣	(1)～(4)	向社会的性	(11)(12)(14)(33)
算数(数学)に関する意識	(60)(61)(63)(64)	学習習慣	(23)(25)	学びの自己調整	(22)(43)

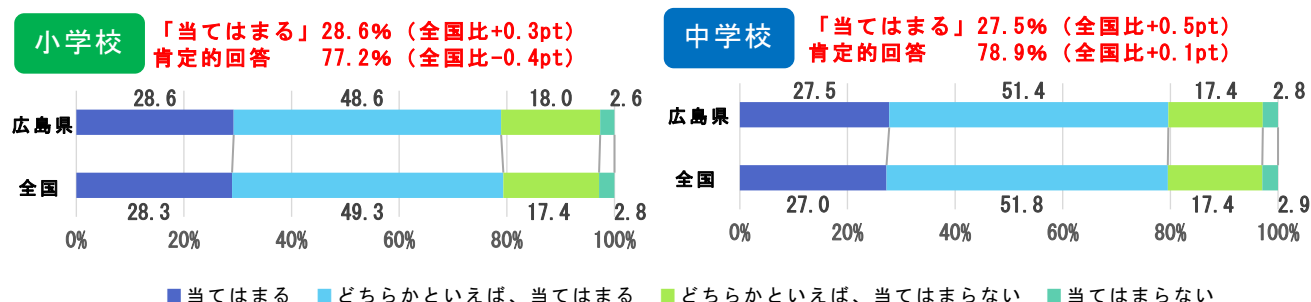
児童生徒質問の内容については、国立教育政策研究所 HP を参照。<https://www.nier.go.jp/26chousa/26chousa.html>

○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の状況

- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える（「当てはまる」に回答）児童生徒の割合は、全国平均より高い。
- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高い。
- 個別最適な学びになっていると感じていたり、協働的な学びに取り組んだと考えたりしている児童生徒ほど、各教科の正答率が高い。

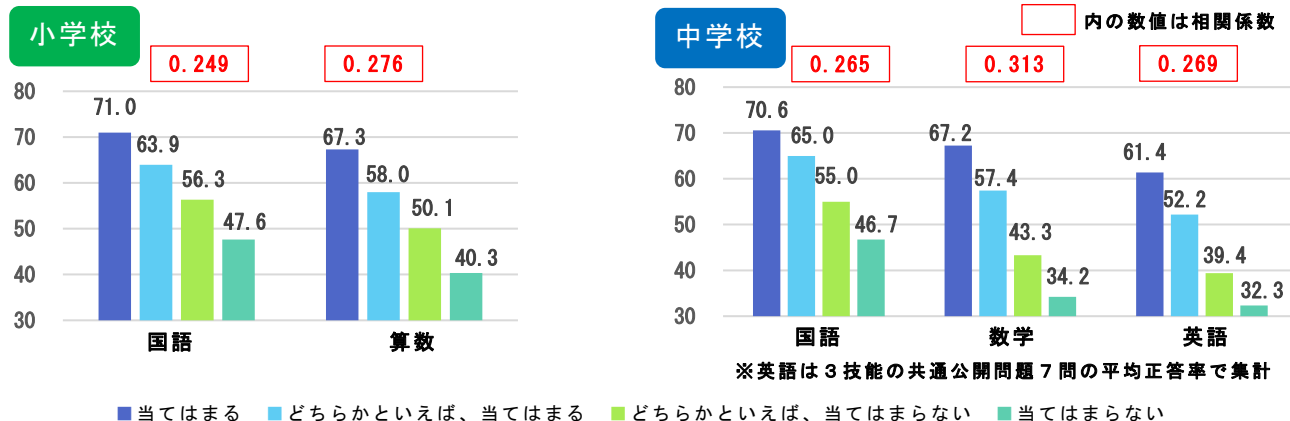
主体的・対話的で深い学び

児童生徒質問 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



※無回答等の割合を省略しているため、合計は100%とならない。

各教科の正答率との関係（クロス集計） 選択肢ごとの教科の平均正答率

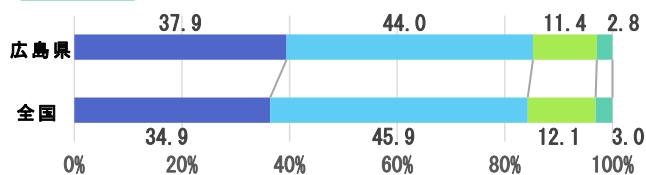


個別最適な学び

児童生徒質問 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

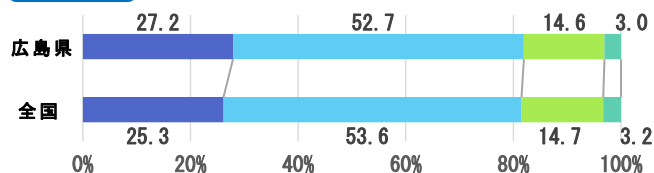
小学校

「当てはまる」37.9%（全国比+3.0pt）
肯定的回答 81.9%（全国比+1.1pt）



中学校

「当てはまる」27.2%（全国比+1.9pt）
肯定的回答 79.9%（全国比+1.0pt）



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

※無回答等の割合を省略しているため、合計は100%とならない。

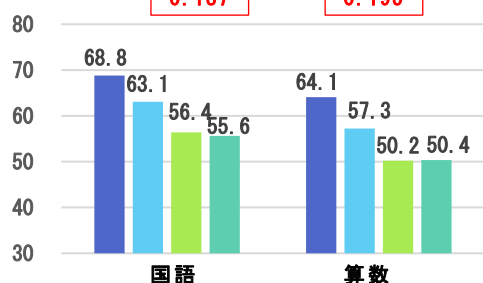
各教科の正答率との関係（クロス集計）

選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校

0.187

0.195



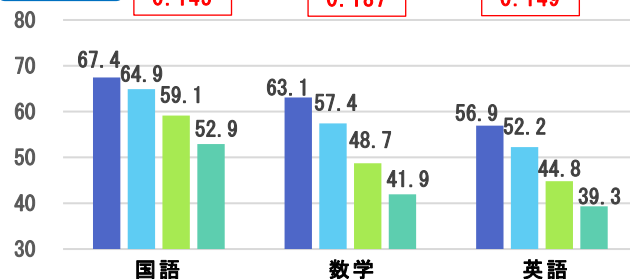
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

中学校

0.145

0.187

0.149



※英語は3技能の共通公開問題7問の平均正答率で集計

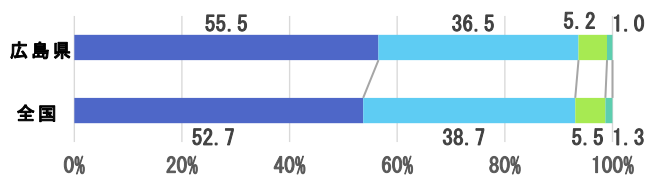
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

協働的な学び

児童生徒質問 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

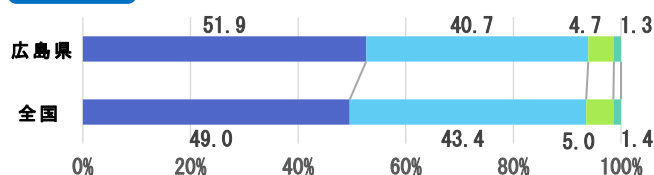
小学校

「当てはまる」55.5%（全国比+2.8pt）
肯定的回答 92.0%（全国比+0.6pt）



中学校

「当てはまる」51.9%（全国比+2.9pt）
肯定的回答 92.6%（全国比+0.2pt）



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

※無回答等の割合を省略しているため、合計は100%とならない。

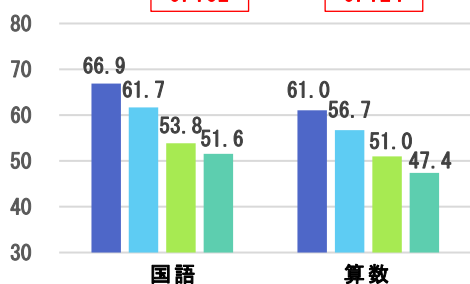
各教科の正答率との関係（クロス集計）

選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校

0.162

0.124



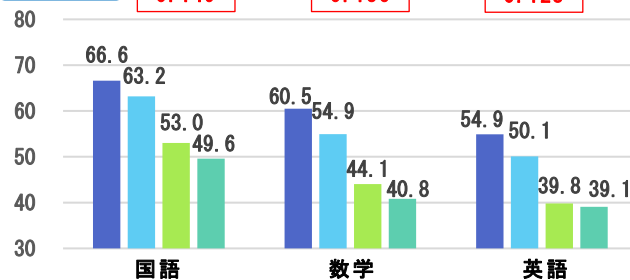
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

中学校

0.149

0.156

0.128



※英語は3技能の共通公開問題7問の平均正答率で集計

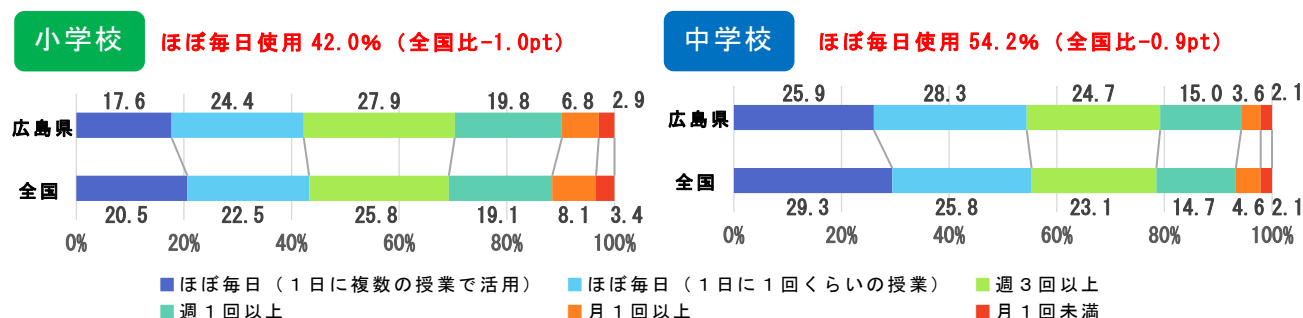
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

○ ICT を活用した学習状況

- 一人1台端末をほぼ毎日使用した児童生徒の割合は、全国平均より低い。
- 一人1台端末をほぼ毎日使用した児童生徒は、それ以外の児童生徒と比べ、各教科の正答率が高い。
- 児童生徒が自分で調べる場面や発表・表現する場面、やりとりする場面で一人1台端末を使用させている学校の割合は、全国平均より低い。

一人1台端末の使用頻度

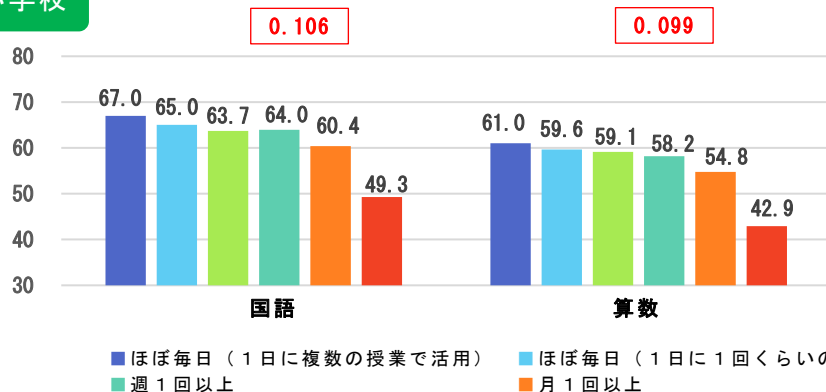
児童生徒質問 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



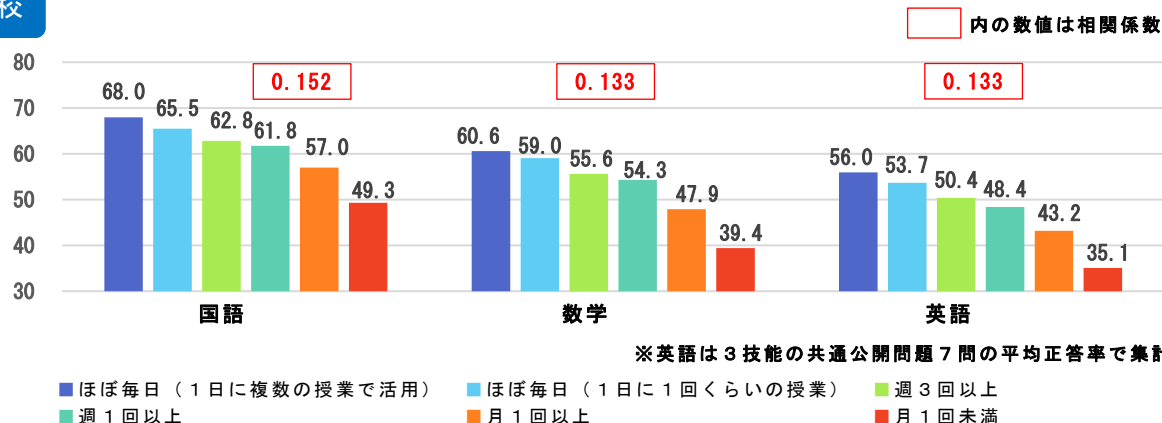
※無回答等の割合を省略しているため、合計は100%とならない。

各教科の正答率との関係（クロス集計） 選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校



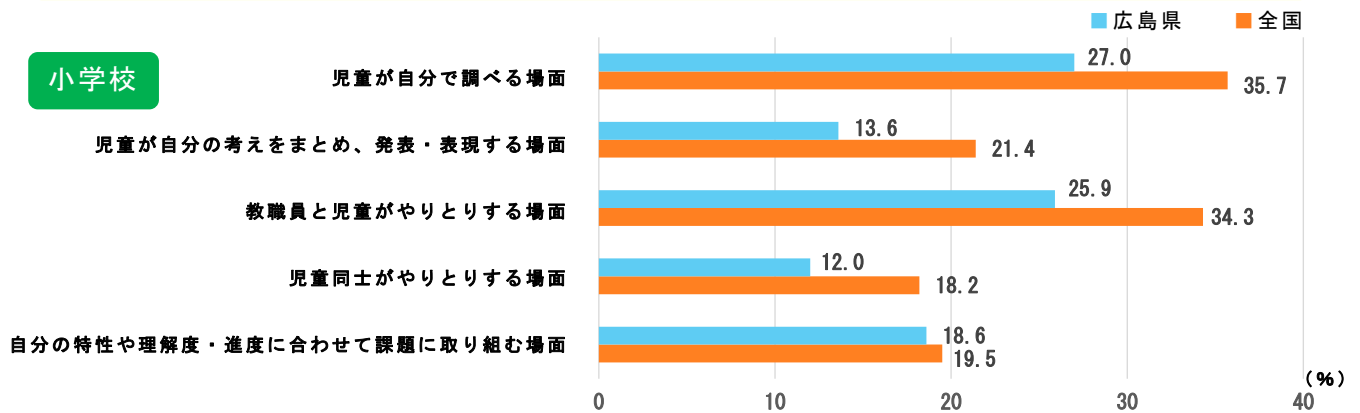
中学校



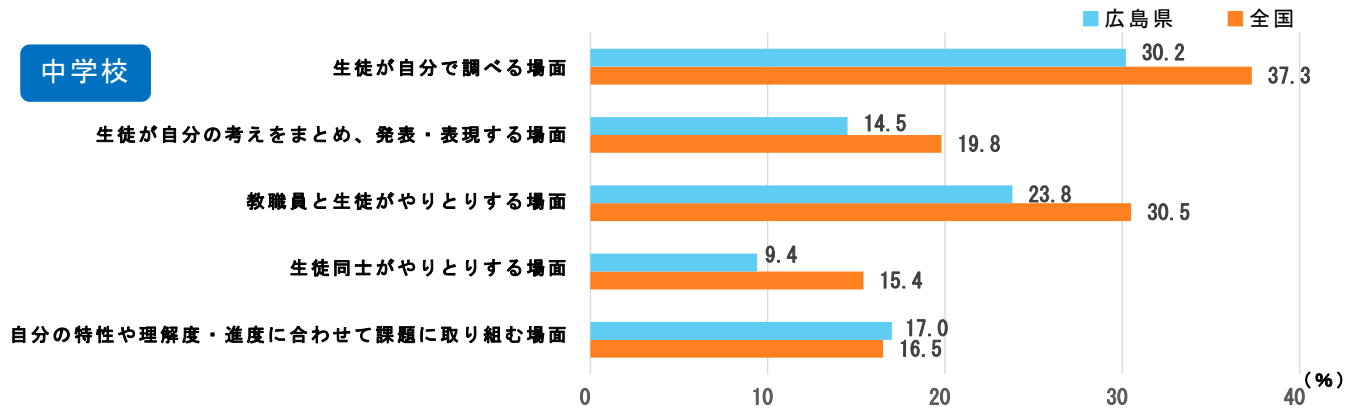
一人1台端末の指導状況

学校質問 次のような場面で児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」と回答した学校の割合）

小学校



中学校

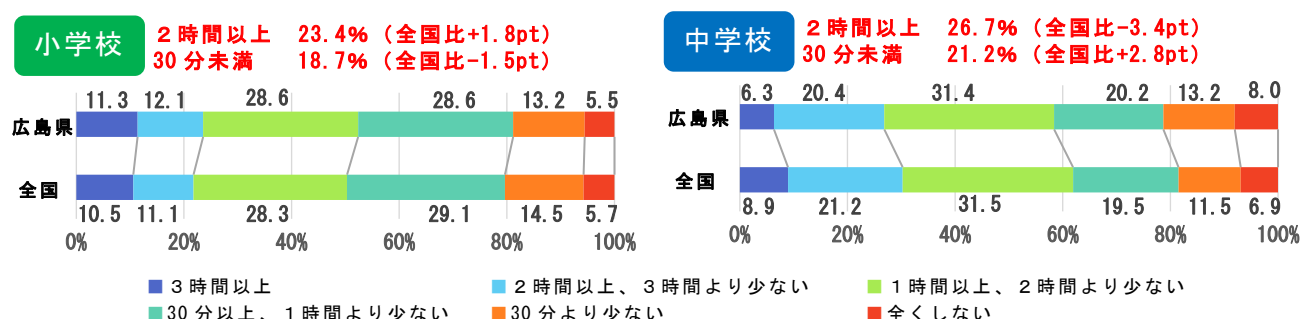


○ 学習習慣

- 授業を除く平日の勉強時間が2時間以上の児童生徒の割合は、全国平均より、小学校は高いが、中学校は低い。
- 休日の勉強時間が3時間以上の児童生徒の割合は、全国平均より、小学校は高いが、中学校は低い。
- 授業を除く平日や休日に全く勉強をしない児童生徒は、それ以外の児童生徒と比べ、各教科の正答率は低い。

平日の勉強時間（授業を除く）

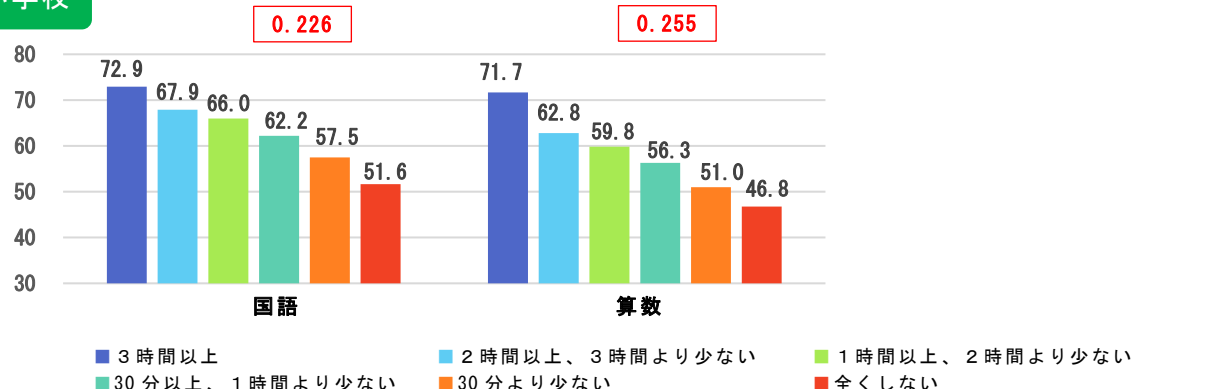
児童生徒質問 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



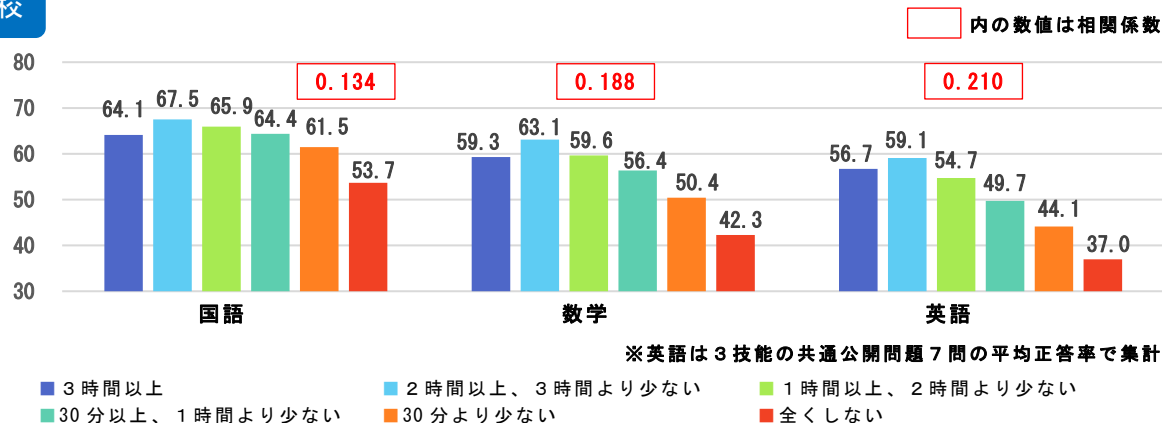
※無回答等の割合を省略しているため、合計は100%とならない。

各教科の正答率との関係（クロス集計） 選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校

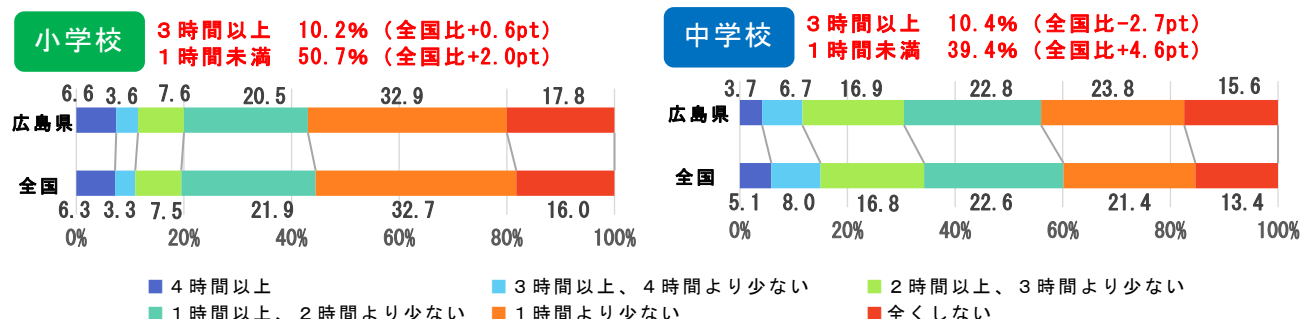


中学校



休日の勉強時間

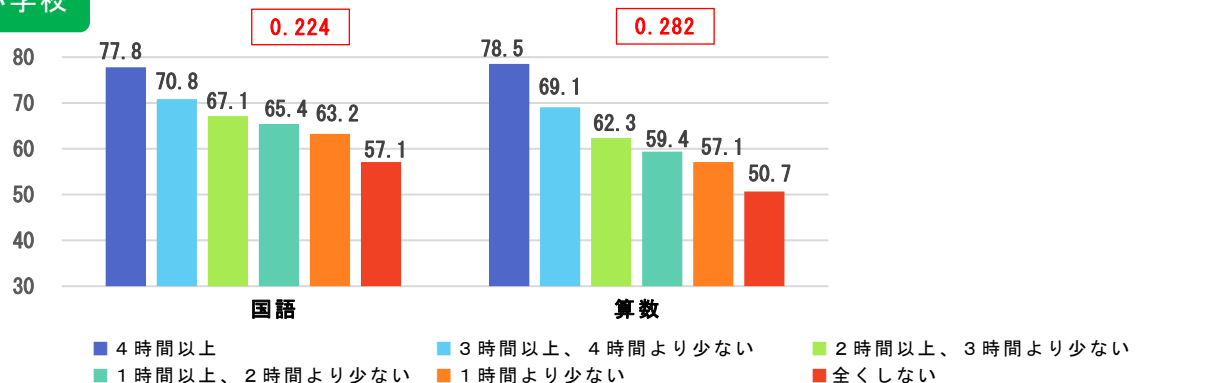
児童生徒質問 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



※無回答等の割合を省略しているため、合計は100%とならない。

各教科の正答率との関係（クロス集計） 選択肢ごとの教科の平均正答率

小学校



中学校

